

国際交流員のコラム

●日中友好の道を辿る薩摩半島の旅●

—鹿児島県国際交流員 鄧麗霞（中国出身）—

鹿児島県と鹿児島市の日中友好協会の主催により日帰りバスツアーが行われ、県内の中国人留学生をメインとする約60名が参加しました。私は通訳としてはまだまだ未熟ですが、日中友好協会の方と一緒に留学生たちを絶景スポットが多い薩摩半島南部巡りのコースへ案内し、観光や見学をして楽しい思い出をいっぱい作ってもらいました。

朝7時半に鹿児島大学図書館前で集合して、まず知林ヶ島を眺める道の駅いぶすき「彩花菜館」に向かって出発しました。知林ヶ島を陸続きにする砂道は、時期的に見ることはできませんでしたが、錦江湾を流れる海流がぶつかり合って海流の境目に砂れきが堆積してできた道が潮の中にあることを考えるだけで鹿児島の新奇な自然に惹かれました。

次は半島最南端の地である長崎鼻を訪問しました。ここでは、「薩摩富士」とも呼ばれている開聞岳を眺められるほか物語の中の浦島太郎の石像と姫様を祀った龍宮神社もあります。景色はもちろん、道端の店や看板も鹿児島の面白い文化と雰囲気を楽しめるところです。私はお土産に名物の鰹節を買いました。



竜宮神社

道端に見かけた面白い看板

昼食先へ行く前に池田湖にも寄りました。私は池田湖に関する豆知識とイッシーの伝説を留学生たちに伝え、池田湖の大うなぎを見に行きました。池田湖は九州最大のカルデラ湖で、池田湖の大うなぎは、寿命30年～50年、長さ最大2m、重さ最大20kgにも達しています。こんなに綺麗な環境で育った天然うなぎはきっと美味しいだろうと想像しました☺



番所鼻海岸の岩礁に登った私

お昼は回転式そうめん流し発祥の地と言われている唐船峡で食べました。唐船峡は、夏は屋外にも関わらず涼しい自然環境の中で食欲がそそられ特に人気があります。冬は暖房の効いた屋内の席が設けられていたのですが、暖かい環境の中でそうめんを流しながら食べるのも楽しかったです。中国東北地方のマイナス何十度の冬に、暖かい部屋の中でアイスを食べる風景と似ています。

食事後は、番所鼻公園へ向かいました。留学生たちは大陸の出身が多く、こんなに近い距離で海とふれあうのは初めてです。海に繋がる林の道を辿っていると、突然現れた海天一色の開放感と雄大さに驚き、思わずみんな、異口同音に「わー」と叫びました。みんなな聳(そび)えている開聞岳を背景に撮影したりして、鹿児島で楽しい青春の思い出を残しました。



幸せの鐘



鑑真記念の碑

その後、鑑真記念館へ移動しました。唐の高僧で奈良唐招提寺の開祖である鑑真は、聖武天皇から招かれ日本に渡航しようとしたが、当時の渡来は困難を極め、5回の渡航失敗などの末、両目を失明しました。しかしながら6回目の日本渡航を試みた鑑真は、天平勝宝5(753)年、現在の南さつま市坊津町秋目にやっと上陸し、日本に仏教の戒律や薬学の知識などを伝えました。鑑真の出身地である現在の江蘇省揚州では大明寺に鑑真記念館が建設され、友好交流史の証となっています。鑑真記念館へはくねくねしている狭い山道を通る必要があります鑑真の偉大さを実感できました。館内では、鑑真渡航の模様とその生涯を展示品や大型ビジョンに放映される映像で勉強しました。小さな記念館ですが、たゆまぬ努力をして困難を克服する鑑真和上の精神は、両国の友好交流のために頑張る人々を永く広く励ましていると感じました。

鑑真記念館を見学した後は、近代日本において焼酎文化の礎を築いた黒瀬杜氏の里笠沙でした。日本の「伝統的酒造り」が、ユネスコ無形文化遺産に登録されたよいタイミングで黒瀬杜氏の焼酎作りの見学に行きました。鹿児島の焼酎作りにおいて、三十年代に杜氏という職人が生まれ、彼らは鹿児島県内はじめ九州、関西方面、日本へと焼酎作りの技術を広げたそうです。館内では、焼酎伝来の歴史や焼酎作りの歴史と技術に関する文献と道具が展示され、製麴、一次モロミ、二次モロミ、蒸留、



中国の茅台酒も展示されている

貯蔵、瓶詰め工程も見られました。中国の蒸留酒と言うと、まず浮かび上がるのは、コーリャン（高粱）、トウモロコシ、ジャガイモ、サツマイモなど穀物を原料とする、50度を超える白酒（バイジュウ）です。それ故、中国人の学生はお酒を飲まないのが一般的です。でも杜氏の里笠沙では、留学生たちは鹿児島焼酎を試飲しその甘みと香りを美味しく吟味していました。



鹿児島の焼酎の数々



玄関付近に置いてあるたくさんの酒壺

日が暮れる前に「安らぎの郷川辺」に寄って地元の特産品を買いに行きました。普段あまり目にしないおやつから調味料、野菜、お肉までみんな長い列を並んで様々な特産品を買っていました。

中国人留学生のみなさんにとって道中の景色や参加者間の交流、見学先で一生懸命聞き取る姿、写真で撮られた笑顔、全部鹿児島でのよい思い出となります。ぎゅうぎゅう詰めの見学コースでしたが今回の日帰りバスツアーでは、鹿児島の美しい自然と美味しい物を満喫することができ、収穫の多い1日になりました。

今回の日中友好の道を辿った旅が、これからのより良い両国の友好交流に繋がっていくことを願っています。